

堺発 “もてなし茶会”

旧天王貯水池 “2008” 春の一般公開 お花見席

けやき通りまちづくりの会 歴史遺産活用委員会委員長
加藤保之

けやき通りまちづくりの会は堺市まちづくり市民組織認定第1号として平成13年7月から「けやき通りの景観と界隈の歴史遺産を活かしたまちづくり」活動を行っています。

歴史遺産活用委員会、地域交流委員会、花づくり委員会があり、歴史遺産や生涯学習の講演会や勉強会、けやき通りの清掃、けやきの根元の花飾り、店舗の活性化などに取り組んでいます。

地域にある旧天王貯水池は堺市の上水道施設で登録有形文化財です。昭和50年代の一時期、取り壊して看護学校建設との計画もありましたが、保存に向けての市民運動の甲斐あって、幸い残されることになり、現在堺市が管理しています。当会の実施した植生調査では固有の豊かな自然が残されていることが分かりました。

明治43年（1910年）浅香山浄水場とともに堺市上水道の歴史が始まり、来年ちょうど百年の記念の年を迎えます。わが国が明治以降、西洋化、近代化への道を進む中、上水道は大阪府下では明治28年に建設された大阪市について2番目でした。当時、コレラや疫痢など感染症の流行により多くの市民が亡くなりました。早く上水道を建設して欲しいとの声が高かったのですが、建設費が莫大であり、なかなか実現しませんでした。浅香山浄水場からの余剰水を貯水池に貯め、旧市内に自然の高低差（約15メートル）を利用して給水しました。当初計画給水人口6万人として建設されましたが、その後人口が増加する中、昭和39年まで約50年間にわたり使われました。



登録有形文化財(昭和13年8月28日)



内部構造



当時の水道施設が現存する例は少なく、近代化遺産として極めて貴重です。この市民の財産であり、貴重な文化財が有効活用されていませんでした。広く市民に文化財としての価値を知ってもらい、市民の交流が図られるようにと当会では春と秋に一般公開を行っています。

